

科目区分	専門分野	科目名	成人看護援助論Ⅲ (消化器)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(15/30時間)	学 期	第1学期
担当講師	(院内講師)、(院内講師)				
科目目標	<p>1. 消化器疾患患者の生命の危機的状況を脱し、回復に向かうプロセスや社会復帰や自立に向けての看護を理解する。</p> <p>2. 対象の看護に必要な技術を習得する。</p>				
授業計画	<p>第1回 消化・吸収機能障害のある患者への看護 (講義)</p> <p>1. 原因と障害の程度のアセスメントと看護 咀嚼・嚥下障害、消化管機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害、生命・生活への影響</p> <p>2. 主な症状のある患者の看護 嚥下困難、おくび・胸やけ、吐き気・嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢、腹部膨満感、食欲不振と体重減少、黄疸、意識障害<肝性脳症></p> <p>第2・3回 検査を受ける患者の看護 (講義) 上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影<ERCP> 消化管造影、造影CT・MRI、直腸診、腹部超音波</p> <p>第4～6回 治療・処置を受ける患者の看護 疾患をもつ患者の看護 (講義)</p> <p>1. 腸・腹膜疾患患者の看護 ヘルニア、大腸がん、直腸がん</p> <p>1) アセスメント(検査所見含む)</p> <p>2) 看護の実際 手術療法(人工肛門造設術、胃瘻・空腸瘻造設)、栄養療法・食事療法(経腸栄養法、静脈栄養法<中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法>)</p> <p>2. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の看護 肝炎、肝がん、胆石症、肝硬変、膵炎</p> <p>1) アセスメント(検査所見含む) 診断に必要な検査時の看護</p> <p>2) 看護の実際 薬物療法(庇護療法、インターフェロン療法)、治療・処置(食道静脈瘤内視鏡治療、肝動脈塞栓術)、手術(肝切除術)</p> <p>3. 心理的葛藤への援助</p> <p>1) チームアプローチと社会資源の活用(多職種連携、身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用)</p> <p>2) 患者の社会参加への支援(就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)</p> <p>第7回 疾患を持つ患者の看護 (演習) 人工肛門造設術(ストーマ造設術)の管理と実際(スキンケアも含む)</p> <p>第8回 終了試験</p>				
評価方法	筆記試験				
テキスト	<p>系統看護学講座 消化器 成人看護学⑤ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</p>				
講師からのメッセージ	臨床で遭遇する頻度が高く、基本的知識として必要な内容を選択して教授する。また、臨床で実施する機会の多い看護については、演習を行い技術の習得を図る。形態機能、疾病治療論、薬理学、診療補助技術、基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論などの内容を想起し学習に臨む。国家試験出題基準を確認し学習すること。				

科目区分	専門分野	科目名	成人看護援助論Ⅲ (消化器)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(15/30時間)	学 期	第1学期
担当講師	(院内講師)、横山里佳子			実務経験	有
科目目標	1. 消化器疾患患者の生命の危機的状況を脱し、回復に向かうプロセスや社会復帰や自立に向けての看護を理解する。 2. 対象の看護に必要な技術を習得する。				
授業計画	第1～3回 疾患を持つ患者の看護(講義) 1. 食道がん 1) アセスメント(検査所見含む) 上部消化管内視鏡検査 2) 看護の実際 内視鏡下治療、手術療法、放射線化学療法、薬物療法、栄養療法・食事療法 2. 胃十二指腸潰瘍、胃がん 1) アセスメント(検査所見含む) 上部消化管内視鏡検査 2) 看護の実際 手術療法、内視鏡的粘膜下層剥離術、薬物療法 3. 口腔・咽頭腫瘍 1) アセスメント(検査所見含む) 2) 看護の実際 手術療法、放射線療法、薬物療法、栄養療法・食事療法		第4・5回 急性期にある胃がん患者の看護の思考(講義・GW) 1. 急性期にある人の特徴と看護のポイント 侵襲刺激に対する生体反応、健康破綻がもたらす危機と支援(危機理論) 2. 看護過程の展開に必要な情報収集と分析の視点 1) 手術療法を受ける患者の看護 全身麻酔、開腹手術、胃切除によって起こる生体反応の機序 2) 術前評価に必要なデータとアセスメント 3) 術前評価に基づく術後観察のポイント、共同問題の考え方 4) 術後合併症の早期発見・予防のための看護 3. 情報分析・関連図 1) 情報の分析 2) 患者の全体像の把握 第6・7回 回復期にある胃がん患者の看護の思考(講義・GW) 1. 回復期にある対象の特徴と看護 1) 生活の再調整の促進 2) 身体的な問題への援助(苦痛緩和、日常生活の援助、食事の援助、早期回復に向けての援助、急性増悪の予防と早期発見) 3) 心理・社会的な問題への援助(不安とストレス、食の制限への対応、自己管理に対する援助) 4) 家族への援助(健康な食生活の指導、日常生活の調整、ソーシャルサポートの必要性) 第8回 終了試験		
評価方法	筆記試験、課題レポート				
テキスト	系統看護学講座 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
講師からのメッセージ	臨床で遭遇する頻度が高く、基本的知識として必要な内容を選択して教授する。また、臨床で実施する機会の多い看護については、演習を行い技術の習得を図る。形態機能、疾病治療論、薬理学、診療補助技術、基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論などの内容を想起し学習に臨む。国家試験出題基準を確認し学習すること。				